



ちびっこ チャンピオン

「海の生き物大集合」

青い鳥保育園

(左から)

- つぼね あお いさん (4さい)
- にしざき け いくん (3さい)
- しちのへ みら いさん (4さい)
- さかもと る なさん (5さい)
- にしざき な ぎくん (3さい)
- しまかわ まさむねくん (4さい)

このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。



このコーナーでは誕生日を迎えたちびっこ達をご紹介します



鶴田 羽華ちゃん
(沢辺) R5年7月27日
「ぶくぶくほつべが
チャームポイント」



草創教育長の「今月の一枚」

鳥の話

まずは、町の鳥にもなっているカモメの話から。(絵は下北の尻労漁港です。すみません。)

ずいぶん昔ですが、「カモメのジョナサン」というアメリカの小説が流行りました。

他のカモメが、飛ぶのはエサをとるため、それが当たり前と思っているのに、ジョナサンは飛ぶこと自体に価値を求め、超高速で飛んだり危険な急降下をくり返したりして修行する。その様が仲間から受け入れられず、やがて群れを離れて孤高の道を進む、という内容だったと記憶しています。

深浦町の子どもたちも、ジョナサンのように群れから離れて、各々好きな道を歩め、そこまで言いつもりはありません。

でも、群れから抜けることも恐れず自分の道を主体的に選べる子、本心に少なくともなっていないか？

ひと頃、「いい子症候群」という言葉がよく使われました。

以下、その特徴。

- ・意見も質問も進んで言わない。集団に隠れて目立ちたくない。
- ・でも、皆に合わせて協調はできる。
- ・危険な勝負に出て失敗して傷つくのはイヤ。そこそこ努力して無難に階段をのぼりたい。

こんな子が、どこでも確実に増えたのは、やはり我々大人の責任です。

まずは、親が冒険させない。危険も失敗も試行錯誤も、あらゆる艱難(かんなん)を先回りして取っ払ってしまう。

学校もまた「みんな仲よく」という無理なスローガンを掲げて付度を強要する。自分の主張を貫き通すことより、他者に歩み寄る美徳を優先させてしまう。

自己主張せず、無難に協調したふりをする心地よさばかり教え、とことん自分の頭で考え実行に移す潔さを育てなかつたのは、我々大人の落ち度です。

我々は、カモメどころか、長良川の鵜飼のような育て方をしてこなかつたか？ 首に縄をつけて調教し、潜って魚をとらせる、あの鵜飼いです。

調教された鵜たちは、縄を解き放つても、自分で考え自分で餌をとって、本当にたくましく生きていけるのでしょうか？

カモメとよく似ていますが、鳴き声がうるさくて似つきも鋭いのがウミネコだそうなんです。

少くも印象が悪くても、飼いは慣らされた鵜よりは伸びしろがあります。

(教育長 草創 文人)

